

学校関係者評価委員会報告書

一般社団法人 五常会
東北歯科技工専門学校
学校長 渡邊 奈美

一般社団法人五常会東北歯科技工専門学校は、令和5年度学校自己点検評価結果をふまえ、評価委員会を実施しました。下記にその内容を報告致します。

会議名：学校関係者評価委員会

日時：令和5年11月22日（水）19:00～21:00

会場：東北歯科技工専門学校 2階 理工実験室

出席者：委員4名 事務局4名

委員	笠原 紳（薬師堂歯科院長・元東北大学歯学研究科）
委員	鈴木 宏明（日本平歯科医院院長）
委員	山本 洋一（株式会社メディナ 取締役）
委員	菅原 克彦（ケイエスデンタル 代表）

事務局	渡邊 奈美（東北歯科技工専門学校学校長）
事務局	小松 勝（東北歯科技工専門学校副校長）
事務局	八巻 賢一（東北歯科技工専門学校教務部長）
事務局	神永 聡（東北歯科技工専門学校教務主任）

1. 開会
2. 参加委員紹介
3. 学校長挨拶
4. 資料確認
5. 職業実践専門課程の中で学校評価の役割とは再確認
6. 令和5年度シラバスについて
事務局 神永から説明

7. 自己点検評価項目に対する評価

自己評価は、次の9項目について評価をして頂きました。

- (1) 教育理念・目標、
- (2) 学校運営、
- (3) 教育活動、
- (4) 教育成果
- (5) 学生支援、
- (6) 教育環境、
- (7) 学生募集、
- (8) 社会貢献、
- (9) 法令等の遵守、
- (10) 財務

以下詳細については次の通りです。

今回の全 10 項目で改悪となった項目を中心に改善案を委員から伺った。

1 教育理念・目標等

小松副校長より学生の資質低下により改悪を招いたのではないだろうか？

本校の教育方針 HEARTNESS を軸に学生たちに指導をしているが、伝わっていないように感じる。

鈴木委員→指導者と学生たちに意識の乖離があり、指導者も学生の変化や心情についていけないようになってきたのではないか。

神永→学生自身の意欲低下が原因ではないか？

菅原委員→昨今の学生たちは打たれ弱く気質が大きく変化している反面、歯科技工の現場は旧来体質もありついていけない学生も多くなってきているのではないか。

笠原委員→歯科全体のイメージが下がってきており、歯科の道を希望する学生達の意識が相当下がっているのではないか？

改善案

笠原委員→歯科に従事することの魅力や体験の数を増やしてみてもどうか。

菅原委員→学生の意識が低下している上、年々指導する難しさや教員数の減少で指導者の意欲も低下しているのではないか。他校の例では、経営者が学校を立て直す意欲を教職員に示し、入学者数の増加や指導力に改善が見込まれたケースもあるので意識を変えて頑張ってもらいたい。

2 学校運営

八巻→学生数減少により職員数削減も行わざるを得ない中、教育の質をあげより充実した指導ができるよう Google ワークスペースを導入。この中で使用している Google Classroom というソフトは、国家試験対策問題を学生に iPad を使用して出題、瞬時に採点が終わりその結果は、教員それぞれが自身のパソコンで確認できるようになった。そのため、解答の収集・マークシートのスキャン・データ集積等の手間がなくなり職員の負担軽減が図れることで学

生に寄り添った教育ができるようにシステムを構築した。

菅原委員→どの学校も教員一人にかかる負担は非常に大きくなってきている。そのため、非常勤講師の採用を多くして常勤教員に時間を作る必要があるのではないか。

笠原委員→質問力に乏しい学生が多くなっている。質問出来る能力を養う必要がある。

山本委員→評価の見える化をはかり学生にやる気を出させてみてはどうか。

山本委員→学生の評価の見える化をするためにバッジを渡す。

菅原委員→他校の取り組みとして挨拶をしっかりと出来た学生に挨拶名刺を講師からプレゼント、ある程度枚数が貯まると実習用材料の不足分購入に充てられる制度なんかも面白いのではないかと。

3 教育活動・教育環境・社会貢献

神永→最大の成果は、国家試験全員合格であった。

社会貢献としては、献血を再開

現在抱えている最大の問題は、学生のコミュニケーション不足
コロナの落ち着いた様子を見て芋煮会、スポーツ大会、シンガポール研修、パークゴルフなど多くの行事を再開

行事終了後、振り返りと効果を測定できるようにレポートを書かせた。一番良かった行事は、芋煮会であった。今後は、さらにワークショップ型授業を増やして行きたい。

菅原委員→他校ではインター制度を導入（現場を知ることやコミュニケーションの大切さを理解するため）

八巻→実施のためには、受入側の相当な準備が必要で残念ながら仙台で可能な施設は相当限られてしまう。

4 財務

理事長から財務基盤の立て直しには、入学者数確保が必須とのこと

菅原委員→学校の魅力を発信するとともに歯科技工業界の環境改善と古い情報をリニューアルし広報することが大切ではないか。

状況改善には、4～5年程度かかると経営者・職員が覚悟し改善・広報をすること。隣地・ラボ・クリニックなど豊富な資源を生かし、歯科医師など業界関係者も含めて広く歯科技工士の必要性を発信し続けることが大切ではないか。

八巻→学生募集については、本校を含め他校も非常に厳しい状況であるが、一部の養成機関ではすでに定員に達しているところもある。
この学校では、これまで歯科技工士という職業にマイナスなイメージを持っている高校側を中心に現場の環境改善を説明すると同時に卒業生もしっかりと個人が活躍し良質な職場環境が整った職場に就職させる実績を整えてきた結果である。これには、しっかりとした戦略と教職員が一丸となって内外的に環境整備することが必要不可欠である。

八巻→歯科界で歯科技工士の置かれている環境は、大きく変わり始めている。
第一に労働条件に改善（初任給アップと残業時間の短縮）
義歯製作技術者の絶対的不足も起きており、国や関係団体も対策に乗り出している。

八巻→昨年評価委員会で話した歯科技工士の職業をアピールできるように全国歯科技工士学校協会広報としてホームページのリニューアルを行った。

笠原・鈴木委員→学生たちのモチベーションアップアップのため患者を見る体験が必要ではないか。

理事長→コロナ禍により診療見学実習も控えてきたが今後は再開を含めて検討したい。

山本委員→学校のブランド化や教育の効率化を図るために数字に出して改善ポイントなどを洗い出す必要があるのではないか。

今回は、評価委員会から他校の取り組みをはじめ活発な改善案も出された。歯科技工学校の取り巻く環境は以前厳しいものの歯科技工士自体の環境は改善されつつあり、歯科界での必要性が再認識されているのも実感できる。本校としてもここ数年は対応に迫られると思うが東北全体のニーズに応えるためにも五常会全体として何か出来るかを考え、行動に移す必要があると思われる。